

令和4年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校名: 広島大学附属福山中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標) との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育	① グローバルリーダーの育成 (WWLの教育の着実な実践と 成果の普及)	グローバルな社会課題の解決に向 けた教科横断的で探究的な学びを 通じた、イノベティブなグローバル 人材を育成するためのカリキュラムを 開発する。	ワールド・ワイド・ラーニング (WWL)コンソーシアム構築 構築支援事業3年目にあたり、7月に 国際会議、3月に成果発表会を実施 し、成果を発信する。	地域を掘り起こし、世界へつながる題材を中心 に据えて開発した教育課程の成果を発信する。 WWLに関する生徒、保護者へのアンケートで、 満足・おおむね満足が80%以上を示す。	ワールド・ワイド・ラーニング (WWL)コンソーシアム構築支 援事業3年目にあたり、7月に 国際会議、3月に成果発表会 を実施することができた。連携 校との協働活動、中学生の積 極参加が進んでいる。	A	国際会議で、連携校生徒との 協働によるグループ発表、留 学生とのその場でのディスカ ッションを行ったことなど、高く評 価する。また、成果発表会で中 学生からの活発な質問なども あり、学校全体として探究的な 学びが進んでいる様子も見えて 取れる。	A	IDEC-IGS連携プログラムを継 続して実施し、連携校との協働 的な学びを通して、当事者意 識の涵養を進めている。WWL (個別最適な学習環境の構築) 事業を進め、学習コンテンツの 開発に取り組み、情報発信に 努めていく。
	① 研究開発の推進 (広島大学と連携した教育研 究活動の推進)	大学の教員と連携・協力した教育研 究活動を一層推進する。	教育研究大会においては、 助言者を広島大学に依 頼する。研究発表を開 発し、公開する。	大学と連携した教育研究活動に関する協力件 数を昨年より5件程度増加させる。	国際会議に向けての経済学部 や医学部の先生との連携、広 島大学トランスレーショナルリ サーチセンターとの連携、学部 附属共同研究等、大学と連携 した研究をすすめることができ た。	A	教育学部にとどまらず、医学部 や経済学部、IDECやIGSなど 多岐に亘り、幅広く大学の教員 と連携している点も評価でき る。今後も継続して取り組んで 欲しい。	A	トランスレーショナルリサーチ センターとの連携を継続し、新し いプロジェクトにも取り組んでい く。また、IDECやIGSの先生 方と連携したプログラムのブラ ッシュアップに努めていく。
附属学 校の役 割・機 能の 見直 し	① 教育方法の開発、普及 (教員の個人研究・グループ 研究の支援、研究方法の研 修)	大学との連携を強化し、大学の資産 を活用して、先導的な教育方法の開 発、普及を行う。	校内研究授業の活性化と 附属学校間での授業研 究の交流を行う。大学と附 属の共同研究を推進す る。	翠・東雲・三原の各附属学校と、お互いの教育 研究大会へ参加し合う。先導的な教育方法を 開発し、研究成果の学会発表を3件以上実施 する。	翠・東雲・三原の各附属学校 と、お互いの教育研究大会へ 参加し合い、交流した。10月 に行われた日本教科教育学会第 48回全国大会で、研究成果の 学会発表を3件実施した。	A	校内でお互いの授業を見学し 合う取組を始めたことや、先生 方が自発的に協働してカリキュ ラム開発を始めたことなど高く 評価する。このような取組を公 開していくことも期待する。	A	今後も校内でお互いの授業を 見学し合う取組を継続し、活 性化させていく。また研究推進 委員会を機能させ、他の附属と の交流の機会を増やしていく。
	② 高大接続 (広島大学とのカリキュラムの 連携や入学のシステム設計)	大学の進路ガイダンス調査・研究に 協力し、入学のシステム設計に寄与 する。大学と連携し、アドバンスブ レイズメントを実施する。	理学部の進路ガイダンス 調査に協力する。ICTを 活用したアドバンスブレ イズメント(AP)を実施 する。	理学部の進路ガイダンス調査について、二学期 までに二回実施する。ICTを活用したアドバ ンスブレイズメント(AP)について、1学期中 に生徒・保護者へ発信し、3名以上の生徒を参 加させる。	理学部の進路ガイダンス調査 について、二学期までに二回 実施した。アドバンスブレイ ズメント(AP)について、8名 の生徒が参加した。	A	今後も理学部の進路ガイ ダンス調査に協力し、理系に進む 女子生徒を支援していく。アド バンスブレイズメントについて も、興味のある生徒に参加を促 していく。	A	理学部の調査については、今 後も積極的に協力していく。開 設講座が増えた広島大学アド バンスブレイズメントへの生徒 の参加を積極的に促し、参加 人数を増やしていく。
	③ 地域連携、地域貢献 (人事交流を基盤とした地域 の学校との研究交流)	人事交流教員の派遣元府県や地域 へ、連携・貢献するためのシステム を構築する。	人事交流教員に対する研 修プランを検討する。	人事交流教員について、交流期間中に一度は 研究会において公開授業を実施する。校内及 び公開研究会等の指導案について、HPで公 開する。	人事交流教員に対する研修 プランの検討を進め、研究会に おいて人事交流教員が公開授 業を実施した。	C	人事交流教員について、まず は附属の考え方や授業方法に 慣れていただくことが大切であ る。その上で研究を進め、交流 期間の後半で、一度は研究会 において公開授業を実施して もらうようにすると良いのでは ないか。	B	交流期間の後半を迎える先生 方が、大学の先生に協力いた だきつつ授業研究に取り組み るようにし、11月の教育研究会 において公開授業を実施す る。
	④ 教育実習 (特色ある教育実習プログラ ムの開発)	教職大学院および教師教育プログラ ム等との連携によって、教員養成 と教員研修のあり方について検討す る。	教員需要の減少期にお ける学部の教育実習、教 職大学院実習等の指導 方法を検討する。	教育実習入門・教育実習観察・教育実習B・教 育実習I・IIを実施した後の学生へのアン ケートで、満足・おおむね満足が90%以上を示 す。	教育実習B・教育実習I・IIを 実施した後の学生へのアン ケートで、100%肯定的評価で あった。	A	全国的に教員需要が減少し ているだけでなく、教員のなり手 が減少している点は憂慮すべ きところである。附属で教育実 習をすることで、教員になりた いという意欲が湧いてくるよう な教育実習を実践に欲しい。	A	教育実習入門・教育実習観 察・教育実習B・教育実習I・ IIの系統性を踏まえ、より教育 実習生が教員になりたいとい う意欲を高め、向上心を持って 取り組める教育実習の実践に 努めていく。
学校経 営	① 働き方改革 (業務の効率化)	検証可能な形での働き方改革を行 い、公立学校のモデルとなる取り組 みを行う。	日常業務や学校行事、校 務分掌の見直し、部活動 への外部指導員の導入を 検討し、教員間の業務等 負担の平準化に努める。	業務の効率化により、出勤・退勤時刻記録簿の 所定労働時間以外の在校時間数が年間320時 間を超える教員数を前年度より減少させる。	教員間の業務等負担の平準化に 努めたものの、出勤・退勤時 刻記録簿の所定労働時間以 外の在校時間数が年間320時 間を超える教員数が変わらな かった。	C	生徒たちにとって良い教育を 行うためにも、先生方が心身共 に健康で、元気にお勤めいた だきたい。そのためにも、一部 の教員に負担が偏らぬよう、教 員間の業務負担の平準化に努 めていただきたい。	C	各部の部長や係主任・学年主 任にもマネジメント力を発揮し ていただき、運営会議なども 情報共有しながら、ICT等の活 用による業務負担の平準化の 努力を継続し、先生方の超過 勤務を減らしていく。
	② 環境の改善 (安全・安心・快適な学習・労 働環境の整備)	生徒および教職員の心身の健康と 安全な学校環境を実現する。	教育助成会や教育後援 会との緊密な連携により 教育環境を改善する。生 徒・教職員が安心して学 校生活を送るため研修を 強化する。	安全衛生委員会を中心に安全・安心のための 点検ならびに改善計画を立案し、実施する。ハ ラスメント防止基本方針を5月までには策定し、 年度内に一度はハラスメント対策についての教 職員研修会を実施する。	安全衛生委員会を中心に安全・安心のための 点検ならびに改善計画を立案し、実施した。 ハラスメント防止基本方針を5 月に策定し、2月にハラスメント 対策についての教職員研修会 を実施した。	A	教職員同士がのびのびと力を 発揮できる環境は、生徒た ちの健やかな成長と密接なつ ながりがあると考える。今後とも 気を抜くことなく、ハラスメント の防止に努めていただきたい。	A	安全衛生委員会を中心とした 安全・安心のための点検なら びに改善計画の立案・実施、 ハラスメント対策についての教 職員研修会の実施は確実に継 続する。
そ の 他	① 情報通信環境の整備 (先進的なICTの導入と活用)	GIGAスクール事業に対応した先進 的なICT教育に取り組む。学校運営に おいてもICTを活用する。	情報ネットワーク整備なら びに、ICT機器の整備を 継続して実施する。職員 会議や教職員間での情 報共有、保護者との連絡 において、ICTを活用す る。	情報メディア委員会や運営会議等で情報ネット ワークの整備・活用を促し、授業だけでなく会議 や保護者対応の場面でもICT活用を進め、出 勤・退勤時刻記録簿の所定労働時間以外の在 校時間数が年間320時間を超える教員数を前 年度より減少させる。	情報ネットワークの整備・活用 を促し、授業だけでなく会議や 保護者対応の場面でもICT活 用を進めた。出勤・退勤時刻 記録簿の所定労働時間以外の 在校時間数が年間320時間 を超える教員数を減らすことが できなかった。	C	今年度は4年生の教室へのプ ロジェクタの設置が進んだ。来 年度は是非とも5・6年生の 教室へも設置し、授業でのICT の活用を進めていただきたい。	B	5・6年生の教室へプロジェクタ を設置し、授業へのICTの活用 を進める。また、Google classroomを積極的に活用し、 先進的なICT教育に取り組 んでいく。
	② 入試制度の見直し (当校の入学選抜の内容、 実施方法の見直し)	児童・生徒のもつ、多様性を引き出 すような入試のあり方を検討し、ミ スのない厳正な入学選抜を実施す る。	コロナ禍により受験の機 会が失われないよう、追 試験実施のための校内体 制を整える。インターネット 出願を実施する。	11月までには入試検討委員会により入学選 抜改善のための検討を行い、追試験実施のため の校内体制を整える。11月までにはイン ターネット出願の導入準備を完成させる。	11月までにインターネット出 願の導入準備、追試験実施の校 内体制を整え、実際にイン ターネット出願を実施し、入 試業務の効率化につなげることが できた。	A	インターネット出願により、入 試業務の効率化へつなげたこ とは評価できる。一方で、追 試験の実施によって先生方への負 担は増したのではないかと懸 念している。今後ともミスなく、 地域のニーズに応えられる入 学者選抜方法を検討していく。	A	受検生・保護者にとってわかり やすくなるように、我々教職員 にとって負担が減るように、 インターネット出願を洗練させて いく。
	③ 生徒指導の改善 (いじめ防止、生徒理解の徹 底)	いじめ防止を徹底し、生徒の心身の 健康管理システムを改善する。	人とのかかわりわりアン ケート、人づきあいのアン ケートを実施する。いじめ 防止、配慮が必要な生徒 に関する教職員研修を 実施する。	人とのかかわりわりアンケート、人づきあいのアン ケートを毎学期実施する。いじめ防止、配慮 が必要な生徒に関する校内研 修を年間5回実施し、6月に合 理的配慮に関する外部講師に よる研修を実施した。	人とのかかわりわりアンケート、 人づきあいのアンケートを毎 学期実施した。いじめ防止、 配慮が必要な生徒に関する校 内研修を年間5回実施し、6 月に合理的配慮に関する外部 講師による研修を実施した。	B	日頃からの丁寧な懇談など、 生徒理解に努めることは継続 していただきたい。担任の先 生だけに負担がかからないよ うに、多様な生徒へ対応してい くための、先生方の連携を大 切にして欲しい。	B	人とのかかわりわりアンケート の実施、いじめ防止・配慮が必 要な生徒に関する教職員研修 の実施を継続する。新たにス クールソーシャルワーカーに 入っていただき、問題を抱える 生徒や家庭に対して支援して いく。